

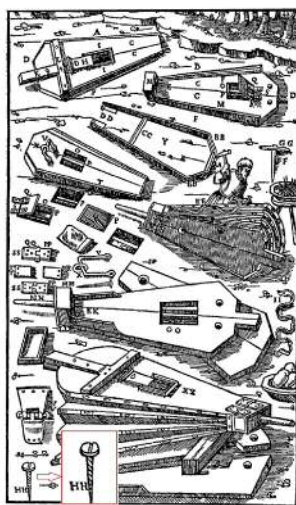
鉄のふしぎ?
博物館

■52

やっと和訳本が手に入った、初めてこの本のコピーを手にしてから何年になるのだろうか? 英語の不得手な私は、英文の本の鮮明な画像を見て、注釈部分を和訳本と比較しながら調べたのです。これからは本格的に文章が読めると思う、とりあえず『ふいご』に関連する部分を読んでいきます。送風機と『ふいご』については6の巻(鉱山用の道具と機械)と9の巻(鉱石溶解の方法)に記載があります。今回は9の巻

『デ・レ・メタリカ 鞴(ふいご)』

衣川製鎖工業・衣川良介社長



画像①

を中心の記事を書きます。金属を製錬する業者にとって『ふいご』は最も重要な道具の一つです。金属加工だけでなくガラス工芸や陶芸など高温を必要とする職人にとって

も必要です。『デ・レ・メタリカ』9の巻の最初は精錬工場の建屋と炉の築造です。次の数ページにわたって『ふいご』(Bellows)の製作方法が詳細に説明されています。(画像①) 精錬工場の裏手で三つの『ふいご』が稼働している様子で



画像②

す。(画像②) 9の巻に描かれている工場内のイラストには大小さまざまな『ふいご』が一基、または数機の運動する様子が見えます。一つ変わった形の『ふいご』が錫を精錬する炉と共に描かれています。(画像③) 以下にそれぞれの説明文を書き

ます。(画像①) (P326) 鞴に使う木材の材質、蓋板と底板は蝦夷松で枠に使われるのは菩提樹である。その板の大きさはさ〇〇〇、幅×××、厚み〇〇〇と細かな数字も記載。又、その製作工程や必要部品についても詳しく書かれています。画像の左下に木ネジが見えます。すでにこの頃に使われていたのです。この形の『ふいご』が主流だったようです。

画像② (P322)

精錬工場の裏手には必要の水車で回転する軸、鞴を押し引きする鉄棒と装置。鞴の胴は2枚の木製の板と弓形の2個、革部の2枚から出来ていま

ます。画像③ (P368) ルシタニア人達の中には黒色錫(すず) 鉱石を小型の炉で溶かして錫をとるものがある。その際丸形の革製の鞴が用いられる。鞴の鉄輪に開けた口から管口が挿入され、木輪の中央に通風弁がある。提灯をたたくような操作で風を送る。この種の鞴は強い風を送ることが出来ないで、ゆっくりと収縮、膨張させるため、能率は良くない。話は変わりますが、グーグルの検索で『衣川製鎖工業株式会社』または電話番号『079-1234-1151』を入力し、『地図』を選択すると、



画像③

誰かの冗談かいたすらでしよう。弊社の青い丸屋根の外観とともに『鞴神社』(大阪市天王寺区・生国魂(いくくにたま)神社の摂社)の写真が表示されます。この神社は日本で唯一の『鞴神社』です。江戸時代、大坂の天満に『箱鞴』を作る業者達が活躍していたからでしょう。弊社ホームページ『むらの鍛冶屋』のお話シリーズの中に好評の『ふいごのお話』があるからでしょう。うか? 興味をお持ちの方は一度検索してみてください。

▽参考図書『デ・レ・メタリカ』全訳とその研究(三枝博音 1968年 岩崎学術出版、ホームページ『むらの鍛冶屋』)『ふいごのお話』(http://www2.nemmenet.or.jp/kinugawa/huigo/index.htm)